見聞録

「FC EXPO 2009」見聞録

鈴木 譲

株式会社 鈴木商館　豊田事業所

〒470-0334 愛知県豊田市花本町井前 129-2

今回で5回目となるFC EXPO が2009年2月25日から2月27日まで東京ビッグサイトで開催されました。今回も水素エネルギー協会は共催という形でFC EXPOの開催を支援いたしました。今回はPV EXPOも同時期に開催と言うこともあり、15 カ国・から 473 社が出展し、会期中の来場者は 26,240 人となったそうです。今回も昨年の入場者数を上回る入場者を集め、景気後退の影響を懸念していた関係者の心配を払拭する盛況ぶりでした。

写真 1.　FC EXPO2009 受付付近風景

今回の展示では最近テレビ等でのコマーシャルを目にする機会も多くなった家庭用燃料電池システム「エネファーム」が目を引きました。経済産業省資源エネルギー庁によれば家庭用燃料電池システムは 2010 年頃より民間主導による普及段階に入り、2020 年頃からは低価格化を実現し本格普及段階に入る計画との事です。

セミナーと講演に関しては出展者セミナーが 19 件、基調講演が 1 件、特別招待講演が 12 件行われました。

トヨタ自動車（株）の増田常務役員は講演の中で、昨今開発に名乗りを上げるメーカーも多い電気自動車に関し以下のように述べていました。電気自動車に関しては走行航続距離が長く取れない点が電池コストや電池重量・容積と関係している。反面燃料電池車に関しては重量1.5ton クラスの車でも既に航続距離 500km を充分達成している。燃料電池自動車の抱えている問題点はコストダウンであり、当面目標を現在の 1/10 と考えておりそこが達成できれば量産効果で更なるコストダウンが可能との考えを述べていました。

更にEV とFCV あるいはFCHV の関係はEV が小型短距離コミューターと FCV が中型や大型の長距離移動手段とおのずと棲み分けがなされるとの見解も披露していました。

FCHV の普及開始時期の目標は2015 年としているそうです。

相変わらず海外からの出展も多くカナダ、スイス、フランスは大使館レベルのバックアップをしたブースを出していました。

ドイツ水素燃料電池協会、NRW 州燃料電池と水素のネットワークも出展していました。

写真 2.　カナダパビリオン付近の風景

例年同様に水素エネルギー協会も出展ブースを確保していただきました。

展示物は例年とあまり大きな違いはないのですが、運営組織説明パネル、出版物紹介、協会説明パンフレットの配布などPR をさせていただきました。

今年も事務局の米富さんがブースにいらっしゃいました。お一人でいらっしゃるのは何かと大変ではないかと思います。せっかくのPRの機会ですから次回から役員有志を募り HESS の事業として実施しているパタゴニアの風力開発など大々的にPRする事も方策かと感じました。

写真3.　FC EXPO 2009 水素エネルギー協会ブース

****

【FC EXPO 2010（第6回 国際水素・燃料電池展）】
会　期：　2010年3月3日（水）～5日（金）
会　場：　東京ビッグサイト
主　催：　リード エグジビション ジャパン（株）
共　催：　水素エネルギー協会（HESS）
　　燃料電池開発情報センター（FCDIC）